

経営人材基礎力養成プログラム

経営人材として第一歩を踏み出しましょう



現在の日本において、新たな経営者を養成する意義は非常に大きく、特に次の4点に集約される。

第一に、企業の持続的成長と競争力の強化があげられる。経営者が優れた判断力を持つことで、企業は市場の変化に迅速に対応し、持続的な成長を遂げることができる。そのために、マネジメント論や戦略論の基礎的な知識は不可欠となる。昨今では、これらに加え、データサイエンスやDX、AIに関する基礎知識も必須となりつつある。

第二に、イノベーションの推進がある。グローバル化や技術革新が進む現代において、テクノロジーマネジメントやイノベーション論を学ぶ意義は大きい。これらの知見は、経営者の卵と言うべき起業家にとっても不可欠なものである。

第三に、地域経済を支える中小企業の活性化がある。日本の経済は多くの中小企業に支えられているという観点から、多様な経営者を養成することは、これらの企業の経営基盤を強化し、地域経済の活性化につながる。

最後に、人材育成と組織力の強化があげられる。経営者がしっかりととしたビジョンを持ち、効果的なマネジメントを行うことによって、企業内での人材育成が促進される。

ここで最も重要なこととして、上記で掲げられた知識やスキルは、一朝一夕に身につくものではなく、いずれも長い時間をかけた学びと実践のサイクルが欠かせない。そこで本プログラムでは、これらの基礎となる知識や手法を提供することで、履修者が経営人材としての基盤を築く第一歩とすることを期待する。

正課の授業科目によるリスキリングプログラム

プログラム名	経営人材基礎力養成プログラム
プログラム設置部局	新学術創成研究科総合知創出科学専攻
プログラムコーディネーター	金間 大介
概要	現在の日本において、新たな経営者を養成する意義は非常に大きい。企業における持続的成長と競争力の強化は、経営者が担うべき主要命題であり、そのためにマネジメント論や戦略論の基礎的な知識が不可欠となる。また、昨今では、データサイエンスやAIに関する基礎知識も必須となる。また、技術マネジメントやイノベーション論の知見は、経営者の卵と言うべき起業家にとっても不可欠なものである。加えて、地域経済を支える中小企業のビジネスモデルを学ぶことも経営者養成には欠かせない。経営者がしっかりといたビジョンを持ち、効果的なマネジメントを行うことによって、企業内での人材育成が促進される。ここで掲げられた知識やスキルは、一朝一夕に身につくものではなく、いずれも長い時間をかけた学びと実践のサイクルが必要となる。そこで本プログラムでは、これらの基礎となる知識や手法を提供することで、履修者が経営人材としての基盤を築く第一歩とすることを期待する。
到達目標	本プログラムは、上記に掲げたキーワードに対応する科目群から構成されており、企業経営に関連する基礎的な考え方や知識、手法を学ぶことができるようになっている。本プログラムを修了することによって、持続的な成長や競争力強化に資する学術的・汎用的な基礎知識、データサイエンスやAI等の活用方法、地域社会のあり方やその発展の道筋、起業家が習得すべき組織のあり方や運営手法などを習得することを目標とする。
履修資格・条件・前提知識の目安	特になし
履修期間及び開始Q	履修期間: Q1からQ4、開始Q: Q1
修了要件	10科目中から6単位以上を修得すること。

授業科目名	開講学類等	単位数		修了要件 内訳	備考
		必修	選択		
イノベーション方法論	大学院GS基盤科目		1		
数理・データサイエンス・AI基盤	大学院GS基盤科目		1		
ビジネス・技術マネジメント戦略論	大学院GS基盤科目		1		
予防医学と社会データ分析	総合知創出科学専攻		1		
商品開発特論	総合知創出科学専攻		1		
イノベーション特論	総合知創出科学専攻		1		
人的資源と経営戦略情報基盤	総合知創出科学専攻		1		
観光地経営特論	総合知創出科学専攻		1		
地域経済とケーススタディ方法論	総合知創出科学専攻		1		
AIアプリケーション構築基盤論	総合知創出科学専攻		1		

特記事項	
問合せ先	プログラムコーディネーター: 融合研究域融合科学系 金間 大介 メールアドレス: kanama@staff.kanazawa-u.ac.jp 担当係: 融合系事務部学生課大学院係 メールアドレス: s-yugo@adm.kanazawa-u.ac.jp

プログラム名						
経営人材基礎力養成プログラム						
プログラムのCP(教育課程編成に関する基本的考え方)						
本プログラムでは、企業の持続的成長や競争力の強化、イノベーション創出等を担う人材の養成に有効な、マネジメントや戦略に関連する専門基礎科目で構成する。						
教育内容・教育方法(教育課程実施)に関する基本的考え方						
1. 教育内容 (1)企業経営に関する基礎的で幅広い知識や手法を解説する。 (2)企業経営の実践において必要なマネジメント論や戦略論、イノベーション論、ならびにAIやデータサイエンスの活用方法を学ぶ。 (3)現在の地域社会における課題を踏まえた地域経済の活性化方策を論じる。						
2. 教育方法 (1)全ての科目は、オンライン講義(双方向型またはオンデマンド型)で実施する。 (2)チャット機能やMinutes paper等を用いて学修内容の理解を深める。						
プログラムを構成する科目						
科目番号	授業科目名	学修目標	Q1	Q2	Q3	Q4
19-35007.1	イノベーション方法論	国経や公共政策、歴史や社会文化的要素といった企業の置かれている環境が、イノベーションに与える影響を把握した上で、実際に産業の振興に貢献した方や、ベンチャー企業を創出した方から、各企業での事業創出までの経緯や手法を学ぶ。さらに、各受講者が、主体的に製品を生みだし、起業してみたいと思えるようにすることを目標とする。	○			
19-35008.01 19-35008.03	数理・データサイエンス・AI基盤	企業経営の方針・意思決定や生産活動の効率化において、データ分析やAI活用が注目されている。この授業では、web上で公開されているデータセットを用いて、その社会背景を考察しつつデータ解析を行い、最終日までにレポートを作成・提出することを通じて、データリテラシーを修得を目指す。	○	○		
19-35010	ビジネス・技術マネジメント戦略論	本講義は、ビジネスモデルの構築や商品企画を検討する上で重要なロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキング、クリエイティブシンキング、デザインシンキングを理解し、課題設定力、発想力、分析力、創造力などの強化を目指す。さらに、技術マネジメント(MOT)の背景と必要性を学び、MOTの観点から適切な解決策の検討が出来ることを目指す。	○			
19-35105	予防医学と社会データ分析	この授業では、予防医学の理論と社会データ分析のスキルを組み合わせることで、学生が公衆衛生分野でのデータ駆動型アプローチを修得できるようになる。また、ケーススタディとプロジェクトベースの学修を通じて、実際の健康問題に対するデータ分析の応用能力を養う。最終的に予防医学と社会データ分析における実現可能な研究テーマと具体的な手法を提案することを目指す。		○		
19-35108	商品開発特論	商品の開発について、特に開発研究という観点から、知識を習得し、実践する力を培う。			○	
19-35110	イノベーション特論	イノベーションを起こせない組織は、遅かれ早かれ必ず消滅する。そしてイノベーションを醸成できない国や地域もまた、必ず衰退する。そこで本授業では、イノベーションに関する基礎知識を理解するとともに、今後の調査研究活動の基礎とすることを目指す。また、イノベーションの基本的な役割、コンセプト、仕組みについて、いくつかの事例を交えながら学修する。				○
19-35113	人的資源と経営戦略情報基盤	経営戦略を理論的かつ実証的に検討する。具体的な事例を通じて経営戦略の理論的フレームワークを検討できるようになる。理論を学ぶだけでなく、その理論が前提としている多国籍企業の実情について理解を深め、自ら実践的な問題提起ができるようになる。	○			
19-35204	観光地経営特論	ニューツーリズム施策以降の観光地経営に関する学修を通して、地域資源を活用した着地型観光、データサイエンスと稼げる観光、観光まちづくり、関係人口の構築等の授業のキーワードに対する理解を深め、これから観光地経営を提案できることを目指す。		○		
19-35210	地域経済とケーススタディ方法論	地域経済を分析するための主要な方法論の1つとしてケーススタディの科学的理解について学ぶ。国内外各地域の動向と関連づけながら、現代の経済社会をとらえるための地域経済学の考え方や分析方法等を整理する。				○
19-35301	AIアプリケーション構築基盤論	近年のAI技術の発展により、AIを応用了したシステムが構築され様々な場面で利用されるようになってきた。AI技術を導入したシステムは、従前よりも格段に性能が向上した有用なシステムとなっており、これからも、新たなシステムを構築する際には、AI技術の活用は必須であると考えられる。そのため、本授業では、AI技術、特にデータマイニング・機械学習で用いられる基礎的なアルゴリズムを理解し、その実装と応用に関する知見を修得することを目的としている。	○			